

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	岡山県地域水産業再生委員会倉敷市地区部会
代表者名	部会長 平田 敏男

再生委員会の構成員	児島漁業協同組合，第一田之浦吹上漁業協同組合，本田之浦吹上漁業協同組合，第一下津井漁業協同組合，下津井漁業協同組合，下西漁業協同組合，黒崎連島漁業協同組合，一般財団法人倉敷水産協会，倉敷市
オブザーバー	岡山県漁業協同組合連合会，岡山県農林水産部水産課

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	倉敷市内に本所のある漁業協同組合に所属する漁業者53名 ○漁船漁業38名 袋待網漁業6名・・・袋待網漁業専業 1名 小型底びき網漁業と兼業 3名 小型底びき網漁業と潜水器漁業と兼業 1名 潜水器漁業と兼業 1名 流網漁業3名・・・流網漁業専業 2名 あなごかごなわ漁業と兼業 1名 小型底びき網漁業18名・・・小型底びき網漁業専業 16名 潜水器漁業と兼業 1名 ごち網漁業と兼業 1名 潜水器漁業2名・・・小型底びき網漁業と兼業 2名 たこつぼなわ漁業7名・・・たこつぼなわ漁業専業 5名 流網漁業と兼業 1名 潜水器漁業と兼業 1名 たこ釣漁業1名・・・たこ釣漁業専業 1名 あなごかごなわ漁業1名・・・小型底びき網漁業と兼業 1名 ○ノリ養殖業15名 ノリ養殖業専業 6名 小型底びき網漁業と兼業 3名 流網漁業と兼業 3名 小型底びき網漁業と流網漁業の兼業 2名 袋待網漁業と兼業 1名
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

倉敷市地区は元来、瀬戸内の豊かな自然に恵まれ多くの沿岸漁業が営まれていた。主な漁獲物は、春はイカナゴ・サワラ・メバル、夏はマナガツオ・スズキ、秋はママカリ（サツバ）、冬はガザミ・タイラギ、また年間を通じてゲタ（シタビラメ）・マダイ・クロダイ・カサゴ・メバル・アナゴ・マダコ等が漁獲され、冬場はノリ・ワカメの養殖も営まれている。主な漁法は、小型底びき網や袋待網、建網、たこ釣、たこつぼなわ等の漁船漁業と、ノリ、ワカメなどの海面養殖漁業である。

しかし、水産資源の減少により、近年の漁獲量は2千トンを割り込む年が多く、長期的に見ても減少傾向である。漁業経営についても、燃油の高騰、魚価の低迷、後継者不足等により非常に厳しい状態である。

(2) その他の関連する現状等

倉敷市地区の漁業協同組合数は、平成19年に16組合であったが、経営体質改善のための合併、組合員数の減少による解散により、平成26年現在は8組合（内、1組合は他市に本所を置く漁協の支所）となっている。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

漁業者が安定した漁獲を確保し、それを安定した収入へ結びつけるため、次のような方針を基幹に実施する。

1) 漁業収入向上

①付加価値向上等による魚価の向上

- ・水産物の加工による付加価値向上
- ・神経締め等の鮮度保持技術による付加価値向上
- ・少量多品種の漁獲物の集荷方法の改善
- ・高性能ノリ異物検出機による品質向上
- ・高品質なノリ生産のための講習会等の開催
- ・乾海苔の規格統一化による単価向上

②販路拡大と積極的な宣伝活動

- ・漁獲物の出荷先振り分けによる魚価向上
- ・都心部での地元産水産物販売とPR
- ・地域活性化イベントでの地元産水産物のPR
- ・地元での対面販売による売上げ向上と魚食PR
- ・市と連携した岡山海苔のPR

③資源管理、種苗放流等による資源増大

- ・種苗放流と中間育成による資源増大
- ・抱卵ガザミや稚ダコの再放流による資源増大
- ・サワラ受精卵放流による資源増大

<p>④新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就漁者，漁業後継者の受入体制整備 <p>2) コスト削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船の省エネ化（減速航行，エンジンの入替等），漁業施設・機器の更新，船底清掃や低コスト操業の推進を図る。 <p>3) 漁港及び周辺施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁港の整備，保全，防災対策を行う。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

<p>岡山県資源管理指針に基づき，抱卵ガザミの再放流に取り組み，10魚種については大きさを定め，それ以下の大きさの魚を再放流している。また，児島，下津井地区において，産卵期の9月中はマダコを禁漁としている。</p> <p>岡山県ノリ養殖漁場改善計画に基づき，養殖棚数量，養殖漁場及び期間等について制限している。</p>

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成26年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比2.7%向上させる。

以降，以下の取組内容は，取組の進捗状況や得られた知見等を踏まえ，必要に応じて見直すこととする。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① 付加価値向上等による魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船漁業者は漁協と連携し，近年水揚げが増加し，価格が下落したマダイの利用方法を検討する。マダイの一夜干し等の試作品を作り，漁協で試験的に販売する。 ・漁船漁業者は，県漁業士会の神経締め講習会に各漁協から複数名参加し，神経締め等の鮮度保持技術を習得する。 ・漁船漁業者は底びき網等で少量漁獲される魚種について，数量を揃えて出荷することで単価上昇を図る。 ・ノリ養殖漁業者は高性能ノリ異物検出機を導入し，ノリの品質向上を図る。 ・ノリ養殖漁業者は倉敷地区で近年，乾海苔の品質低下の原因となっているタビュラリア等の付着珪藻発生対策について協議する。 <p>② 市場の動向をみた販売戦略と積極的な宣伝活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年，漁獲物の出荷先は主に中央魚市場と近隣の水産会社に限られており安値で取引されることが多かった。そこで漁船漁業者は漁協と連携し，魚価の変動について市場，販売店との情報交換と営業活動を積極的に行い，漁獲量によって魚価が大きく変動するサワラ，マナガツオ等については，大量に漁獲された際，関東，関西圏等へ出荷先を振り分けることにより価格の低下を防ぐよう
---------------------	--

	<p>努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船漁業者は漁協と連携し、都心部で評価の高いマダコ、ガザミ、ミルクイ、ハモ等を漁協の荷さばき所で数量を揃えて規格を統一し、施氷、脱血、活締め等の鮮度保持処置を施し、関東、関西圏等の都心に鮮魚あるいは活魚出荷し、魚価向上に努める。 ・漁船漁業者は漁協と連携し、「港町下津井魚島フェスティバル」等の地域活性化イベントにおいて、たこめし、焼きアナゴ等の調理、地元産魚介類の対面販売を行い、地元水産物の認知度向上と消費拡大を図る。 ・漁業者は漁協の荷さばき所において、近隣住民、観光客相手に対面販売を行い、調理法の説明により魚介類の美味しい食べ方について普及する。 ・倉敷市は大消費地で実施している市長によるトップセールス等と連携して、岡山海苔の品質をPRすることにより、知名度向上を図る。 <p>③ 資源管理、種苗放流等による資源増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者、岡山県、倉敷市及び倉敷水産協会は放流場所周辺に定着しやすく、魚価も比較的高いキジハタ、ヒラメ等の放流を実施するとともに、漁船漁業者はオニオコゼを中間育成して放流することで、市場単価の高い魚種の資源増大を図る。 ・漁船漁業者は地区毎に抱卵ガザミや稚ダコの再放流を実施することで資源増大を図る。 ・サワラ流網漁業者は漁協、倉敷市と連携して受精卵放流を実施する。 <p>以上の取組を推進することにより、基準年度の漁業収入に対し、0.6%向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1) 省燃油活動の推進</p> <p>各漁業者（漁船漁業、ノリ養殖漁業）は漁船の船底清掃を全員が年1回以上行い、基準年度の燃料費に対し1.0%削減を目指す。</p> <p>2) 省エネ機器の導入</p> <p>5名の漁業者の漁船のエンジンを省エネ型に換装することにより、基準年度の燃料費に対し3.0%削減を目指す。</p> <p>3) 漁船漁業及びノリ養殖漁業について</p> <p>漁協は地域の漁業者へ漁業経営セーフティーネット構築事業への新規及び継続加入を推進することにより、燃油の高騰による漁業経営への圧迫を未然に防止する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業（国）、省エネ機器等導入推進事業（国）、漁業経営セーフティーネット構築事業（国）、漁業振興特別対策事業（県）、</p>

	漁業資源回復事業（市），増養殖等による漁業振興対策事業（倉敷水産協会），水産業施設整備事業（市），水産基盤整備事業（国），農山漁村地域整備交付金（国），港整備交付金（国）
--	---

2年目（平成27年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比4.7%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① 付加価値向上等による魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船漁業者は漁協と連携し，試験販売していたマダイの一夜干し等を製品化し，漁協で量販する。 ・漁船漁業者は，漁獲物に神経締め等の鮮度保持処置を施して販売するとともに，その伝達講習会を漁協毎に開催することにより，鮮度保持技術の普及を図る。 ・漁船漁業者は冷凍しても品質が低下しにくい小型エビ類，イカ類等を漁協の冷凍庫で保存し，サイズ規格毎に数量を揃えて販売する。 ・ノリ養殖漁業者は高性能ノリ異物検出機を導入し，ノリの品質向上を図る。 ・ノリ養殖漁業者は倉敷地区で近年，乾海苔の品質低下の原因となっているタビュラリア等の付着珪藻発生対策について講習会を行う。また，発生がみられた際の周知体制をつくり，酸処理等対策の徹底を呼びかける。 ・ノリ養殖漁業者は，摘採時期，摘採回数に応じてミンチの大きさ等を揃え，コンビニエンスストアで販売されるおにぎりに利用しやすい規格の揃ったノリを生産し，入札単価の向上を図るため，規格統一についての協議を行う。 <p>② 市場の動向をみた販売戦略と積極的な宣伝活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船漁業者は漁協と連携し，魚価の変動について市場との情報交換と営業活動を積極的に行い，漁獲量によって魚価が大きく変動するサワラ，マナガツオ，ハモ等については，大量に漁獲された際，関東，関西圏等へ出荷先を振り分けることにより価格の低下を防ぐよう努める。 ・漁船漁業者は漁協と連携し，都心部で評価の高いマダコ，ガザミ，ミルクイ，ハモ等を漁協の荷さばき所で数量を揃えて規格を統一し，施氷，脱血，活締め等の鮮度保持処置を施し，関東，関西圏等の都心に鮮魚あるいは活魚出荷し，魚価向上に努める。また，店頭で産地表示，ポップの展示，対面販売により県産水産物のPRに努める。 ・漁船漁業者は漁協と連携し，「港町下津井魚島フェスティバル」等の地域活性化イベントにおいて，たこめし，焼きアナゴ等の調理，
---------------------	---

	<p>地元産魚介類の対面販売を行い、地元水産物の認知度向上と消費拡大を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は漁協の荷さばき所において、近隣住民、観光客相手に対面販売を行い、調理法の説明、神経締め等の実演により魚介類の美味しい食べ方と鮮度保持について普及する。 ・倉敷市は大消費地で実施している市長によるトップセールス等と連携して、岡山海苔の品質をPRすることにより、知名度向上を図る。 <p>③ 資源管理、種苗放流等による資源増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者、岡山県、倉敷市及び倉敷水産協会は放流場所周辺に定着しやすく、魚価も比較的高いキジハタ、ヒラメ等の放流を実施するとともに、漁船漁業者はオニオコゼを中間育成し、市場単価の高い魚種の資源増大を図る。 ・漁船漁業者は地区毎に抱卵ガザミや稚ダコの再放流を実施することで資源増大を図る。 ・サワラ流網漁業者は漁協、倉敷市と連携し受精卵放流を実施する。 <p>④ 新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は漁協と連携し、就業希望者、漁業後継者に対する体験研修等の受入体制の整備に努める。 <p>以上の取組を推進することにより、基準年度の漁業収入に対し、</p> <p>1. 2%向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1) 省燃油活動の推進</p> <p>各漁業者（漁船漁業、ノリ養殖漁業）は漁船の船底清掃を全員が年1回以上行い、基準年度の燃料費に対し1.0%削減を目指す。</p> <p>2) 省エネ機器の導入</p> <p>5名の漁業者は省エネ型エンジンを継続使用することにより、基準年度の燃料費に対し3.0%削減を目指す。</p> <p>3) 漁船漁業及びノリ養殖漁業について</p> <p>漁協は地域の漁業者へ漁業経営セーフティーネット構築事業への新規及び継続加入を推進することにより、燃油の高騰による漁業経営への圧迫を未然に防止する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業（国）、省エネ機器等導入推進事業（国）、漁業経営セーフティーネット構築事業（国）、漁業振興特別対策事業（県）、漁業資源回復事業（市）、増養殖等による漁業振興対策事業（倉敷水産協会）、水産基盤整備事業（国）、農山漁村地域整備交付金（国）、港整備交付金（国）</p>

3年目（平成28年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比6.7%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>① 付加価値向上等による魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none">・漁船漁業者は漁協と連携し、マダイとともに市場では安価なアジ、カマス、グチ、その他の未利用魚についても一夜干し等の試作品を作り、漁協で試験的に販売する。・漁船漁業者は、漁獲物に神経締め等の鮮度保持処置を施して販売するとともに、その伝達講習会を漁協毎に開催することにより、鮮度保持技術の普及を図る。更に神経絞めを施した魚については、タグ表示して販売し、その効果を明記したチラシを配布する等して、消費者に向けて神経絞めの効果をPRする。・漁船漁業者は冷凍しても品質が低下しにくい小型エビ類、イカ類等を漁協の冷凍庫で保存し、サイズ規格毎に数量を揃えて販売する。更に漁獲物を高品質に保つため民間会社のCAS冷凍施設を利用して、単価上昇が望める魚種について冷凍販売を検討する。・ノリ養殖漁業者は高性能ノリ異物検出機を導入し、ノリの品質向上を図る。更に高性能ノリ検出機導入済の養殖業者の製品と未導入の養殖業者の製品を区別して出荷し、高品質の製品の入札単価向上を図る。・ノリ養殖漁業者は倉敷地区で近年、乾海苔の品質低下の原因となっているタビュラリア等の付着珪藻発生対策について講習会を行う。また、発生がみられた際の周知体制をつくり、酸処理等対策の徹底を呼びかける。・ノリ養殖漁業者は、摘採時期、摘採回数に応じてミンチの大きさ等を揃え、コンビニエンスストアで販売されるおにぎりに利用しやすい規格の揃ったノリを生産し、入札単価の向上を図る。 <p>② 市場の動向をみた販売戦略と積極的な宣伝活動</p> <ul style="list-style-type: none">・漁船漁業者は漁協と連携し、魚価の変動について市場との情報交換と営業活動を積極的に行い、サワラ、マナガツオ等の漁獲量によって魚価が大きく変動する魚種については、大量に漁獲された際、関東、関西圏等へ出荷先を振り分けることにより価格の低下を防ぐよう努める。・漁船漁業者は漁協と連携し、都心部で評価の高いマダコ、ガザミ、ミルクイ、ハモ等を漁協の荷さばき所で数量を揃えて規格を統一し、施氷、脱血、活締め等の鮮度保持処置を施し、関東、関西圏等の都心に鮮魚あるいは活魚出荷し、魚価向上に努める。また、店頭で産地表示、ポップの展示、対面販売により県産水産物のPRに努める。・漁船漁業者は漁協と連携し、「港町下津井魚島フェスティバル」等
--------------	---

	<p>の地域活性化イベントにおいて、たこめし、焼きアナゴ等の調理、地元産魚介類の対面販売を行い、地元水産物の認知度向上と消費拡大を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は漁協の荷さばき所において、近隣住民、観光客相手に対面販売を行い、調理法の説明、神経締め等の実演により魚介類の美味しい食べ方と鮮度保持について普及する。 ・倉敷市は大消費地で実施している市長によるトップセールス等と連携して、岡山海苔の品質をPRすることにより、知名度向上を図る。 <p>③資源管理、種苗放流等による資源増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者・岡山県・倉敷市及び倉敷水産協会は放流場所周辺に定着しやすく、魚価も比較的高いキジハタ、ヒラメ等の放流を実施するとともに、漁船漁業者はオニオコゼを中間育成し放流することで、市場単価の高い魚種の資源増大を図る。 ・漁船漁業者は地区毎に抱卵ガザミや稚ダコの再放流を実施することで資源増大を図る。 ・サワラ流網漁業者は漁協と連携し、地区毎に統一日を設けて受精卵放流を実施する。 <p>④新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は就業希望者、漁業後継者に対する体験研修等の受入体制の整備に努める。 <p>以上の取組を推進することにより、基準年度の漁業収入に対し、</p> <p>1. 8%向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1) 省燃油活動の推進</p> <p>各漁業者（漁船漁業、ノリ養殖漁業）は漁船の船底清掃を全員が年1回以上行い、基準年度の燃料費に対し1.0%削減を目指す。</p> <p>2) 省エネ機器の導入</p> <p>5名の漁業者は省エネ型エンジンを継続使用することにより、基準年度の燃料費に対し3.0%削減を目指す。</p> <p>3) 漁船漁業及びノリ養殖漁業について</p> <p>漁協は地域の漁業者へ漁業経営セーフティネット構築事業への新規及び継続加入を推進することにより、燃油の高騰による漁業経営への圧迫を未然に防止する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築事業（国）、漁業振興特別対策事業（県）、漁業資源回復事業（市）、増養殖等による漁業振興対策事業（倉敷水産協会）、水産基盤整備事業（国）、農山漁村地域整備交付金（国）、港整備交付金（国）</p>

4年目（平成29年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比8.6%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>① 付加価値向上等による魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none">・漁船漁業者は漁協と連携し、マダイ、アジ、カマス、グチ、その他の未利用魚の一夜干し等を漁協で販売するとともに、道の駅等の販売店への出荷を検討する。・漁船漁業者は、漁獲物に神経締め等の鮮度保持処置を施して販売するとともに、その伝達講習会を漁協毎に開催することにより、鮮度保持技術の普及を図る。更に神経絞めを施した魚については、タグ表示して販売し、その効果を明記したチラシを配布する等して、消費者に向けて神経絞めの効果をPRする。・漁船漁業者は冷凍しても品質が低下しにくい小型エビ類、イカ類等を漁協の冷凍庫で保存し、サイズ規格毎に数量を揃えて販売する。更に漁獲物を高品質に保つため民間会社のCAS冷凍施設を利用して、単価上昇が望める魚種について冷凍販売する。・ノリ養殖漁業者は高性能ノリ異物検出機を導入し、ノリの品質向上を図る。更に高性能ノリ検出機導入済の養殖業者の製品と未導入の養殖業者の製品を区別して出荷し、高品質の製品の入札単価向上を図る。・ノリ養殖漁業者は倉敷地区で近年、乾海苔の品質低下の原因となっているタビュラリア等の付着珪藻発生対策について講習会を行う。また、発生がみられた際の周知体制をつくり、地域全体で酸処理等の対策を徹底する。・ノリ養殖漁業者は、摘採時期、摘採回数に応じてミンチの大きさ等を揃え、コンビニエンスストアで販売されるおにぎりに利用しやすい規格の揃ったノリを生産し、入札単価の向上を図る。 <p>② 市場の動向をみた販売戦略と積極的な宣伝活動</p> <ul style="list-style-type: none">・漁船漁業者は漁協と連携し、魚価の変動について市場との情報交換と営業活動を積極的に行い、漁獲量によって魚価が大きく変動するサワラ、マナガツオ等については、大量に漁獲された際、関東、関西圏等へ出荷先を振り分けることにより価格の低下を防ぐよう努める。また、都心部で高級魚として認知されるように、流網で活きたまま漁獲されたサワラ、マナガツオについては船上で脱血、神経締め等の鮮度保持を施し、高品質な地域特産魚種としてブランド化する。・漁船漁業者は漁協と連携し、都心部で評価の高いマダコ、ガザミ、ミルクイ、ハモ等を漁協の荷さばき所で数量を揃えて規格を統一し、施氷、脱血、活締め等の鮮度保持処置を施し、関東、関西圏等の都心に鮮魚あるいは活魚出荷し、魚価向上に努める。また、
--------------	---

	<p>店頭で産地表示，ポップの展示，対面販売により県産水産物のPRに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船漁業者は漁協と連携し，「港町下津井魚島フェスティバル」等の地域活性化イベントにおいて，たこめし，焼きアナゴ等の調理，地元産魚介類の対面販売を行い，地元水産物の認知度向上と消費拡大を図る。 ・漁業者は漁協の荷さばき所において，近隣住民，観光客相手に対面販売を行い，調理法の説明，神経締め等の実演により魚介類の美味しい食べ方と鮮度保持について普及する。また，マダコ等の地域の代表的魚種の旬の時期には「下津井たこ祭」等のイベントを開催し，集客とおいしい魚のPRに努める。 ・倉敷市は大消費地で実施している市長によるトップセールス等と連携して，岡山海苔の品質をPRすることにより，知名度向上を図る。 <p>③資源管理，種苗放流等による資源増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者・岡山県・倉敷市及び倉敷水産協会は放流場所周辺に定着しやすく，魚価も比較的高いキジハタ，ヒラメ等の放流を実施するとともに，漁船漁業者はオニオコゼを中間育成し放流することで，市場単価の高い魚種の資源増大を図る。 ・漁船漁業者は地区毎に抱卵ガザミや稚ダコの再放流を実施することで資源増大を図る。 ・サワラ流網漁業者は漁協と連携し，地区毎に統一日を設けて受精卵放流を実施する。 <p>④規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は漁協と連携し，就業希望者，漁業後継者に対する体験研修等の受入体制の整備に努める。 <p>以上の取組を推進することにより，基準年度の漁業収入に対し， 2. 4%向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1) 省燃油活動の推進 各漁業者（漁船漁業，ノリ養殖漁業）は漁船の船底清掃を全員が年1回以上行い，基準年度の燃料費に対し1. 0%削減を目指す。</p> <p>2) 省エネ機器の導入 5名の漁業者は省エネ型エンジンを継続使用することにより，基準年度の燃料費に対し3. 0%削減を目指す。</p> <p>3) 漁船漁業及びノリ養殖漁業について 漁協は地域の漁業者へ漁業経営セーフティネット構築事業への新規及び継続加入を推進することにより，燃油の高騰による漁業経営への圧迫を未然に防止する。</p>

活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国），漁業振興特別対策事業（県），漁業資源回復事業（市），増養殖等による漁業振興対策事業（倉敷水産協会），水産基盤整備事業（国），農山漁村地域整備交付金（国），港整備交付金（国）
-----------	--

5年目（平成30年度）

以下の取組により漁業所得を基準年対比10.6%向上させる。

取組の最終年度であり，前年度に引き続き行うが，目標達成が確実なものとなるよう，プランの取組状況を確認しつつ，必要に応じて施策の見直しを行う。

漁業収入向上のための取組	<p>① 付加価値向上等による魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船漁業者は漁協と連携し，マダイ，アジ，カマス，グチ，その他の未利用魚の一夜干し等を漁協及び道の駅等で販売する。更に販売量が増加した際には，県漁連へ加工を委託して増産する。 ・漁船漁業者は，漁獲物に神経締め等の鮮度保持処置を施して販売するとともに，伝達講習会，タグ表示，チラシ配布することにより，鮮度保持技術の普及を図る。更に漁協と協力し，地元飲食店や量販店等での取り扱いを狙って営業活動を行う。 ・漁船漁業者は冷凍しても品質が低下しにくい魚種について民間会社のCAS冷凍施設で高品質のまま保存し，サイズ規格毎に数量を揃えて販売する。 ・ノリ養殖漁業者は高性能ノリ異物検出機を導入し，ノリの品質向上を図る。更に高性能ノリ検出機導入済の養殖業者の製品と未導入の養殖業者の製品を区別して出荷し，高品質の製品の入札単価向上を図る。 ・ノリ養殖漁業者は倉敷地区で近年，乾海苔の品質低下の原因となっているタビュラリア等の付着珪藻発生対策について講習会を行う。また，発生がみられた際の周知体制をつくり，地域全体で酸処理等の対策を徹底する。 ・ノリ養殖漁業者は，摘採時期，摘採回数に応じてミンチの大きさ等を揃え，コンビニエンスストアで販売されるおにぎりに利用しやすい規格の揃ったノリを生産し，入札単価の向上を図る。 <p>② 市場の動向をみた販売戦略と積極的な宣伝活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船漁業者は漁協と連携し，魚価の変動について市場との情報交換と営業活動を積極的に行い，漁獲量によって魚価が大きく変動するサワラ，マナガツオ等については，大量に漁獲された際，地元だけでなく関東，関西圏等へ出荷先を振り分けることにより価格の低下を防ぐよう努める。また，都心部で高級魚として認知されるように，流網で活きたまま漁獲されたサワラ，マナガツオについては船上で脱血，神経締め等の鮮度保持を施し，高品質な地
--------------	---

	<p>域特産魚種としてブランド化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船漁業者は漁協と連携し、都心部で評価の高いマダコ、ガザミ、ミルクイ、ハモ等を漁協の荷さばき所で数量を揃えて規格を統一し、施氷、脱血、活締め等の鮮度保持処置を施し、関東、関西圏等の都心に鮮魚あるいは活魚出荷し、魚価向上に努める。また、店頭で産地表示、ポップの展示、対面販売、更に、販売店と連携し、各魚種の旬の時期には県産水産物のフェアを開催して県産水産物のPRに努める。また、県産水産物のフェアの際には干だこ等の地域特産品についておいしい食べ方等を説明し都心部へ販路拡大を図る。 ・漁船漁業者は漁協と連携し、「港町下津井魚島フェスティバル」等の地域活性化イベントにおいて、たこめし、焼きアナゴ等の調理、地元産魚介類の対面販売を行い、地元水産物の認知度向上と消費拡大を図る。 ・漁業者は漁協の荷さばき所において、近隣住民、観光客相手に対面販売を行い、調理法の説明、神経締め等の実演により魚介類の美味しい食べ方と鮮度保持について普及する。 また、マダコ等の地域の代表的魚種の旬の時期には「下津井たこ祭」等のイベントを開催し、集客とおいしい魚のPRに努める。 ・倉敷市は大消費地で実施している市長によるトップセールス等と連携して、岡山海苔の品質をPRすることにより、知名度向上を図る。 <p>③ 資源管理、種苗放流等による資源増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者、岡山県、倉敷市及び倉敷水産協会は放流場所周辺に定着しやすく、魚価も比較的高いキジハタ、ヒラメ等の放流を実施するとともに、漁船漁業者はオニオコゼを中間育成し放流することで、市場単価の高い魚種の資源増大を図る。 ・漁船漁業者は地区毎に抱卵ガザミや稚ダコの再放流を実施することで資源増大を図る。 ・サワラ流網漁業者は漁協と連携し、地区毎に統一日を設けて受精卵放流を実施する。 <p>④ 新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は漁協と連携し、就業希望者、漁業後継者に対する体験研修等の受入体制の整備に努める。 <p>以上の取組を推進することにより、基準年度の漁業収入に対し、</p> <p>3. 0%向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1) 省燃油活動の推進</p> <p>各漁業者（漁船漁業、ノリ養殖漁業）は漁船の船底清掃を全員が</p>

	<p>年1回以上行い，基準年度の燃料費に対し1.0%削減を目指す。</p> <p>2) 省エネ機器の導入 5名の漁業者は省エネ型エンジンを継続使用することにより，基準年度の燃料費に対し3.0%削減を目指す。</p> <p>3) 漁船漁業及びノリ養殖漁業について 漁協は地域の漁業者へ漁業経営セーフティーネット構築事業への新規及び継続加入を推進することにより，燃油の高騰による漁業経営への圧迫を未然に防止する。</p>
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業（国），漁業振興特別対策事業（県），漁業資源回復事業（市），増養殖等による漁業振興対策事業（倉敷水産協会），水産基盤整備事業（国），農山漁村地域整備交付金（国），港整備交付金（国）

(4) 関係機関との連携

<p>資源の増大については，漁業者は県，市，倉敷市水産協会と連携し，放流魚種の選定やその供給及び費用負担について協議する場を設け，それぞれが共通認識をもって効果的に実施できる環境を作る。</p> <p>ノリのPRについては，漁業者は市商工課とタイアップし，実施する。</p>

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上 (1人あたり)	基準年	平成 年度	: 漁業所得	千円
	目標年	平成 年度	: 漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
省燃油活動推進事業(国)	船底清掃に取り組むことにより，燃油使用量を削減し，漁業コスト削減につなげる。
省エネ機器等導入推進事業(国)	省エネ型エンジンに換装することにより，燃油使用量を削減し，漁業コスト削減につなげる。

<p>漁業経営セーフティネット構築事業（国）</p>	<p>漁業者と国が1対1の負担割合で資金を積み立て、原油価格が一定の基準を超えて上昇した場合に、積立金から補てん金の交付を受けることにより、漁業コスト削減につなげる。</p>
<p>漁業振興特別対策事業（県）</p>	<p>種苗放流の実施により、水産資源の増大と漁獲量の増加を図ることで、漁家経営の安定化につなげる。</p>
<p>漁業資源回復事業（市）</p>	<p>漁業の継続と発展のため、また市民により新鮮で安価な水産物を供給するため、オニオコゼ等の栽培漁業を推進する。</p>
<p>増養殖等による漁業振興対策事業（水産協会）</p>	<p>漁業の継続と発展のため、また市民により新鮮で安価な水産物を供給するため、稚ダコの再放流事業や中間育成への助成を行う。</p>
<p>水産基盤整備事業，農山漁村地域整備交付金，港整備交付金</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業活動の一層の活性化，漁業就労環境の改善及び生活環境の改善を図るために漁港整備を行う。 ・漁港施設の機能保全を行うために必要な機能保全計画の策定及び保全工事を行う。 ・民生の安定上，重要な地域を高潮等による被害から守るために海岸保全施設整備を行う。